

1. 単元名 「小呂島をバズらせよう！」

2. 単元の目標

- 小呂島のよさについて調べ、ICTを活用しながら全校・島外の人たちに発信することができる。
(知識・技能)
- 島外の人に島の良さを効果的に広めるための手段や言葉、使用する写真の構図などを考えながら、効果的に伝えることができる。
(思考・判断・表現)
- 島外の人に島の良さを広めたいという明確な目的意識を持ち、意欲的にアイデアを出したり、クイズアプリにまとめたりしながら、発信しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、調べることよりも、発信することをメインに活動する学習である。島の中で完結してしまいがちな本校の総合学習を、ICT等の力を借りて島外に広めいく。

子ども達の心にまた発信の際、クイズアプリを使って調べたことをクイズ形式にしたり、SNS等を活用したりすることで、楽しみながらまとめたり、メディアリテラシーを高めたりすることができる。

また、子ども達のアイデアに応じて、福岡市博物館の学芸員や、島の振興のために頑張っている島民にも、GT等サポートをしてもらったりすることも考えられる。さらに、SNSを活用することになれば、コメント等で様々なフィードバックをもらえる可能性もある。

この学習は、子ども達の思考の流れにより、単元の流れがデザインされていく。

(2) 児童観

本校児童は3・4年総合学習「さぐろう！小呂島」で、小呂島には素晴らしい自然や文化財がたくさんあることを学習している。また、小呂島の島おこしについて考える学習もしてきた。しかし、どの活動も、子ども達の感覚としては島内で完結しており、本当に島の良さを実感できていないように感じている。ゲストティーチャーへのインタビューでは、退屈そうに教師に言われるままに質問をしたり、長い目で見ると島民の人口の流出が続いていたりしていることから伺える。クラスも少人数であるため、子ども達同士の意見をぶつけあったり認め合ったりする機会がほとんどなく、手放しで大人たちに褒められる、といった現状である。

そんな小呂島の子ども達にとって、自分事として島について関心を持ち、それを対外的に発信して外部の人からフィードバックを受けることは、非常に価値があることだと考える。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、事前に全校児童へのアンケートをもとに作成した「小呂島のじまんベスト3」を発表し、小呂島のよさを再確認する。そんな子ども達に、教師作成のインタビュー動画を提示して、島外の方は、小呂島のことをほとんど知らず、あまり興味も持っていない現実を突きつける。その悔しさをふくらませ、「小呂島のじまを、島の外にも広めたい！」という意欲をしっかりと持たせる。

次に、島外に広める手段を考える。SNSでの発信や、以前お世話になった博物館への展示、「西区の宝」など、教師も必要に応じてアイデアを例示してあげつつ、子ども達に考えさせる。

そして、調べたことをまず、校内児童に発表する。その際、新聞やWSという形式ではなく、クイズクイズアプリ「KAHOOT!」を使って、クイズ作成という形式でまとめる。そこでもらった意見をもとに調べたことを修正し、自分達で選んだ方法で島外へ発信していく。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性・・・ 小呂島には、ほかの地域にないようなじまんが、たくさんあること。

責任性・・・ 島外にほとんど知られていない小呂島の良さを広めるのは、島民である自分達自身の責任であること。

相互性・・・ 小呂島の良さを知ること、島民が島に誇りを持つことができることは、将来的には島興こしや、島民の流出を防ぐことにもつながること。

連携性・・・ より充実した学びを創り上げるためには、他学年の児童・教職員・保護者・島民・島外の人たちなど、いろんな人たちとのつながりが大切であること。

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

コミュニケーション力

小呂島のじまんについて発信していく際、広く誰にでも伝わるような内容・構成を考えて発信する力。

つながりを尊重する態度

一つの目的に向かって、他学年の児童・教職員・保護者・島民・島外の人たちなど、いろんな人たちとつながっていくことができる力。

クリティカル・シンキング

「当たり前」の感覚を批判的に捉え、自分たちの住む地域を広く認めてもらうための新たな方法を見出す力。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

今まであまり意識していなかった地域の良さを見つめることで、歴史や自然、行事などを受け継いできた先人たちへの畏敬の念を育む。さらに自分達が主体となって、その良さを引き継いでいこうという思いにつなげていく。

幸福感に敏感になる。幸福感を育てる。

島には何もない。そんな劣等感にも似た気持ちをどこかに抱いている子ども達が、外部からの評価を通して小呂島の良さを“再発見”することで、島で暮らすことに対する幸福感が高まっていくであろう。

・達成が期待されるSDGs

4 教育

11 まちづくり



4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 小呂島のよさについて、資料をもとに適切に調べることができる。</p> <p>② ICTを活用して、島外の人にもわかりやすいようにまとめることができる。</p>	<p>① 島外の人に小呂島のよさを効果的に広めるための手段を考えることができる。</p> <p>② 島外の人に興味を持ってもらえるような言葉・写真の構図を考えながら、効果的に島のよさを伝えることができる。</p>	<p>① 島外の人に小呂島のよさを広めるという目的意識をしっかりと持ち、その手段を意欲的にアイデアをだすことができる。</p> <p>② 島外の人に小呂島のよさを広めるという目的意識をしっかりと持ち、意欲的にクイズアプリにまとめたり、島外に発信したりしようとしている。</p> <p>③ これからも小呂島の良さを広めていくためにはどうしたらよいのか、自分事として考えることができる。</p>

5. 単元の指導計画（全11時間）

時	学習活動	○ 学習への支援 ※ICTの活用	○ 評価 ・ 考察
1	<p>1. 資料「小呂島じまんランキング」をもとに、小呂島の良さを再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小呂島には、じまんでできるものがたくさんあるよね！ <p>2. 動画「先生のお友だちインタビュー」をもとに、島外の人たちは小呂島のことにほとんど関心がない事実を知り、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島の存在すら知らない人が多い・・・ ・小呂島のことを、島外の人に広めたい！ 	<p>○ 全校児童・教員に事前アンケートをとり、ランキング形式で発表することで、学習への期待感を膨らませるとともに、島の良さを改めて実感できるようにする。</p> <p>○ 島外の人たちの生の声を聞くことで、自分たちの意識とは乖離した実態を知ること、島外に広めたいという意識を高めることができるようにする。</p> <p>○ 子ども達からは、多様な手段は出にくいと考えられる。そこで、SNSで発信、「西区の宝」への登録、福岡市博物館への展示など、いくつか例示して具体的なイメージを持てるようにする。</p>	<p>ウ① (主体的)</p> <p>イ① (思判表)</p>
3 3	<p>4. 島外に広めたいことを決めて、調べたり、紹介用の写真を撮影したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな写真が映えるのかなあ？ ・アップ？ルーズ？角度は？ <p>5. 調べたことをもとに、校内クイズ大会を開き、まずは全校に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通にまとめるよりも、楽しい！ 	<p>○ 小呂島郷土史『海祭』を中心に調べる。本学習は発信がメインの活動なので、調べることに深入りし過ぎないようにする。</p> <p>○ どんな構図の写真が島外の人々の興味を引くかを考えて撮影するようにする。</p> <p>○ クイズアプリ「Kahoot!」を活用して、意欲的に発表会に取り組めるようにする。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>イ② (思判表)</p>
3 1	<p>6. 自分たちで決めた手段で、小呂島のことを島外に広める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの手段が、効果的なんだろう？ ・島外の人から、意見がほしい <p>7. 活動のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも広め続けるには、どうしたらいいんだろう？ 	<p>○ SNSを活用する場合は、メディアリテラシー学習の機会と捉え、適切な情報発信の仕方を身に付けられるようにする。</p> <p>○ どんな方法を選んだ場合でも、島外の人からのフィードバックをもらえるようにして、子ども達が反応を実感できるようにする。</p>	<p>ア② (知・技)</p> <p>ウ② (主体的)</p> <p>ウ③ (主体的)</p>

7 本時の目標

- ・小呂島じまんのアンケート結果などに対する自分の考えを意欲的に発表したり、友だちの考えを、自分の考えと比べながら聞いたりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)
- ・小呂島をもっと知ってほしいという思いをふくらませ、そこから学習問題をつくることができる。 (思考・判断・表現)

8 検証の視点

(1) ESDの視点を明確にした学習指導

小呂島じまんアンケート結果から、島の素晴らしさを再確認する。そんな子ども達に、「実は小呂島の認知度はとても低い」という事実に出会わせることで、島の良さを伝えていこうという気持ちをふくらませるのに効果的であったか。

(2) ICTの活用

- ・自分たちが解答した小呂島じまんアンケートの結果を、パワーポイントを使って、視覚的にテンポよく伝える。
- ・小呂島の認知度の低さを、先生の友だちという身近な存在の人が、動画で回答する姿を目の当たりにする。

以上2点においてICTを用いることで、子ども達は島の良さや課題を、自分事として捉えるのに効果的であったか。

9 本時の展開

主な学習活動と内容	指導・支援 ※ICTの活用 ☆見る視点
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「小呂島アンケート」の結果をもとに、学習問題をつくろう。 </div> <p>2. 「小呂島じまんベスト5」の結果を知り、感想を交流する。</p> <p>(1) 「小呂島じまんベスト5」の結果を知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (資料1)グラフ:「小呂島じまんベスト5」 </div> <p>(2) 感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり小呂島はいいところなんだ! ・小呂島の景色って、素敵だなあ <p>3. 資料をもとに小呂島の実態を知り、考えを交流する。</p> <p>(1) 小呂島の認知度の実態を知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (資料2)動画:「先生のお友だちインタビュー」 (資料3)お料理サイト クックパッド切り抜き画像「小呂島のねりねり丼」 </div>	<p>○ 自分達が解答したアンケート結果をクイズ形式で知ることによって、楽しく、実感を伴う理解ができるようにする。</p> <p>○ 結果への思いをさらにふくらませるために、教師が撮影してきた写真を紹介する。</p> <p>※ パワーポイントのスライドショー</p> <p>☆ クイズ形式の結果発表で、学習への興味関心が高まっているか。(発表)</p> <p>○ 小呂島の素晴らしさを再確認した子ども達に、小呂島の認知度が低いという事実に出会わせ、考えを揺さぶる。字幕や効果音を入れた動画で、より興味深く理解できるようにする。</p> <p>※ 動画「先生のお友だちインタビュー」</p>

- (2) わかったこと・気づいたことを交流する。
- ・“はかた”の人は、小呂島のことを知らないんだ・・・
 - ・こんなに素敵なのに、悲しいな
 - ・この島を、もっと有名にしたい！

4. 島のことを知ってもらうためにはどうしたらよいかを交流し、学習問題をつくる。

- (1) 自分の考えを持つ。
- ・ SNSで発信する
 - ・ 施設やイベントで小呂島を紹介してもらう
 - ・
- (2) 全体で交流し、学習問題の答えをつくる。
- ・ これからの学習で、いい方法を考えたい
 - ・

学習問題

小呂島をバズらせよう！

5. 「今日の学習で」を書く。

☆ 課題を自分事として捉え、子ども達の考えが揺さぶられているか。(発表)

☆ 自分事として、島の良さを広めていこうという思いを持つことができるか。(ノート記述・発表)

- 参観の先生たちと自由に交流することで、自分の考えを訂正したり、自分の考えに自信をもったりできるようにする。そのことで、全体交流で、意見を出しやすい雰囲気にする。
- 状況に応じて、先生たちにも交流に参加してもらう。
- 島の良さを広めるための具体的な手段については次時で取り扱うため、本時では深入りしない。ここでは、どうすれば小呂島の良さを広めていけるのかという思いを持たせることに主眼を置く。
- 学習問題の言葉そのものは、子どもの考えに応じて柔軟に設定する。子どもから出た言葉を用いることで、より自分事として捉えることができるようにする。

10 板書計画

10/31 小呂島じまん

めあて

「小呂島アンケート」の結果をもとに、学習問題をつくらう。

小呂島じまんベスト5

- ・ 小呂島はいいところ
- ・ けしきがきれい
- ・



インタビュー

- ・ 悲しい
- ・ もっと有名にしたい

考え

(自分で発信)

- ・ インスタグラム
- ・ X (ツイッター)
- ・ フェイスブック

(誰かに紹介してもらう)

- ・ 博物館
- ・ 新聞 ・ テレビ

(その他)

- ・ マリノアのイベント

学習問題

小呂島をバズらせよう！



今日の学習で